

仕事人秘録

父は「たたき上げ」
の経営者だった。

家業の阿部長商店（宮城県気仙沼市）を創業した父の阿部泰児は1933年の9月に生まれました。半年前の3月には昭和三陸地震津波が発生しており、祖母は父がおなかの中にいる状態で避難したのです。

現在の南三陸町で漁師の家に生まれ、12人きょうだいの下から2番目でした。裕福な家ではなく、父からは「家業の手伝いで中学校もあまり通えなかった」と聞いたことがあります。

中学を卒業すると家業を手伝い、漁船に乗ったり鮮魚の行商をしたりして生活していました。その後は行商が軌道に乗り、南三陸町内で店舗を構えるまでにな

語り部が震災を伝承 ②

南三陸ホテル観洋女将

阿部 憲子氏



阿部泰児氏は「今回も乗り越えられる」と話していた（2013年）

3回の津波経験した父

工場は長時間の
た。水産加工の
業が必要だ」と
考えていまし

りましたが、60年に発生したチリ地震津波ですべて流されてしまいました。10年以上かけて積み上げてきたものが1日で無くなってしまうわけですが、すぐに再起に向けて動き出します。翌年の61年に南三陸出身の母と結婚し、2人で気仙沼に移って鮮魚の仲卸を始めました。新婚当時について母からは「自宅に

鍋釜しかない長屋生活だった」と聞きました。2人で協力して働き、その日の売り上げをカレンタへ書き込むのが母の日課でした。62年に長女の私が生まれ、63年には弟も誕生します。その下に妹が1人います5人家族でした。私が大人になってから当時の両親の働きぶりについて近所に住んでいた方

ねると「みんなが休むような日も、2人は働いていた」と話してくれました。逆境に負けない父なので、東日本大震災が起きたときも「俺は母のおなかの中も含めて3回の津波を経験した。今回も乗り越えられる」と言い切っていました。私たちが小さいころには母が私を背負い、弟を自宅のハンモックで寝かせて外で働いてい

津波で何もかも失ってから11年後の再起でした。12室の小さな旅館から出発した。南三陸ホテル観洋が建っている場所は、父が行商などで各地へ出かけた際に車を止めて休憩した土地です。海が見えて眺めはいいですが、ホテルができるまでは何もない場所でした。そのころ父は「阿部長商店には水産加工業に続く事業が必要だ」と考えていまし

ました。母は晩年に「当時立ち仕事が必要な職場で、は忙しくて、次女にミルクを十分にあげられなかったかもしれない」と悔やんでいたことがあります。それほど忙しい日々でした。夫婦の働きは実ります。鮮魚の仲卸に加えて自前の工場を持ち、魚介類を加工することもできるようになりました。製造業への進出期もあることを考えれば、71年のことで、チリ

工場は長時間のた。水産加工の業が必要だ」と考えていまし

仕事人秘録

子供のころから「屋号」で呼ばれていた。

私の子供時代の写真はほとんど残っていません。宮城県気仙沼市の長屋で両親と住んでいた時期に、三輪車に乗った写真が存在していた記憶はありますが、東日本大震災の津波で流されてしまいました。

私は幼いころから両親の仕事ぶりを間近で見て、中小企業の働き方や気概を感じてきました。父は私に「勉強しろ」と言ったことは一度もありませんでしたが「家業に誇りを持って」という言葉は口癖のように話していました。

それもあって小学生のころから、漠然と将来は家業にかかわるのだろうと考えていました。気仙沼の自宅

語り部が震災を伝承 ③

南三陸ホテル観洋女将
阿部 憲子氏



開業当初は小規模な旅館だった

幼少期から家業を意識

り、新宿の京王プラザホテル内の日本料理店で和服を着て接客を担当しました。来店客と接するのは緊張しましたが、楽しい経験でもありました。

一方で、自分は地元に戻ったら経営側に立つのだということも理解していました。そんな視点で店舗の運営を実際に見ると、労務や人事といった面では苦労が多いのだろうと感じたこと

「い」の一点張りでした。12室で始まった南三陸ホテル観洋も、このころは約350人を迎えられる規模に拡大していました。さらに550人規模へ拡張する計画も進んでいたのです。

それほどの事業拡大なら従業員を増やす必要があり、オペレーションも大きく変わることになりました。

父は現場で私に様々な経験を積ませたかったのだと思います。事業

には住み込みの従業員も多く、家族と従業員が一緒になって食卓を囲んでいた光景を思い出します。

私自身が子供のころから、学校の友人たちからは家業の屋号である「阿部長（あべちよう）」で呼ばれていました。

大人になれば家業を継ぐというところに抵抗感はなく、むしろ自然な流れだと

を覚えています。

他社で修業したいと考えて父と衝突した。

が、よそで働くよりも修業が大変な時期を家で体験する方が、よそで働くよりも修業になるという考え方もあったのかもしれない。

短大を卒業する時期が近づくと、家業に就く前に他社で働きたいという気持ちが強くなりました。実家でではなく、よそで修業したいと思ったのです。「他のホテルで働いてから家業で働きたい」と父に相談します。1カ月半前にはホテルの現

なかなかな年季が入っていた記憶があります。

在学中には実地研修もあ

場立っていたのです。

仕事人秘録

父はホテルに常駐して
いるわけではなかった。

1983年に東洋大学短期大学を卒業して家業の阿部長商店(宮城県気仙沼市)へ入社し、南三陸ホテル観洋に配属されます。電話の取り次ぎから売店、レストランまでホテル内の職場すべてを経験しました。当時は好景気で売店での土産物の売れ行きが良く、レストランも常に混雑していたことを覚えています。

父の阿部泰児は阿部長商店の社長として本業の水産業を主に指揮し、ときどきホテルの様子を見に来る状況でした。父が現場に現れると従業員の間で「来た、社長が来たよ」とささやき
が広がり、ホテル全体が落ち着かないような雰囲気

語り部が震災を伝承 ④

南三陸ホテル観洋女将

阿部 憲子氏



入社した直後は父の阿部泰児氏(左)と口論することも多かった(2017年)

現場と父をつなぐ役目

ともありました。

従業員への接し方で反省することがあった。

ホテルの営業は順調で現場も活気があり、やりがいがあったのですが、労務管理には難しさを感じました。私はホテルで一番年下ですが、現場を指揮する立場でもあったからです。よく遅刻してくるスタッフがいて、きつく注意していました。しかし、あると

それからは遅刻したり急に休んだりする従業員がいれば、まず状況を聞いてみるようにしました。指示する際も「これをしてください」と言うのではなく「これをしていただけですか」と表現するなど丁寧な言い方を工夫し、従業員と信頼関係を築くことを心がけるようになったのです。

趣旨を従業員に

伝えていました。彼らからすれば社長の娘で

なっていたのです。

あるとき大きな宴会の会場設営を大勢で苦勞して終

え、短時間だけ休憩している際に、父が来訪したことがありました。休んでいる従業員たちに「おまえたち、何をしているんだ」と叱責

する父を見て、私は常に従業員と一緒にいるからこそ、彼らが気持ちよく働ける環境をつくらなければい

けないと実感しました。

そこでホテルの現場を実際に見ることが少ない父に

従業員の実態を伝えるのですが、父なりの考案方もあり、ぶつかるとは多かったです。

父と娘というのは遠慮がないものです。気仙沼市から南三陸町へ向かう自動車の中で父と口論になり、途中で降ろされてしまったこ

き言い方を変えて「今朝はあっても、短大を出たばかりかあったの」と尋ねてみると、病気の家族がいて看病に苦勞していることを知り

ます。私は従業員の事情を知ろうとしていなかったことを反省しました。

ホテルの現場は年配者から若手まで、様々な社員で構成されています。彼らの事情を常に考えなければならず」と伝え、父と従業員の橋渡しに努めていました。

父は現場の社員を叱責することも多く、若手などは

納得できない様子のこともありましたが、私は「後で社長に事情を話しておきます」と伝え、父と従業員の橋渡しに努めていました。

仕事人秘録

できるだけ年上に見られるように苦心した。

入社から数年たつと、配属されたそれぞれの現場で責任者を務めるようになります。その当時の旅館業では食事の提供が遅れてしまった場合など、利用者から叱責を受けることも多かったのです。「責任者を呼べ」と言われて私が出て行く。「こんなに若いのか」というような表情をされることもありました。

そんな経験をして、当時は和服を着て働いていたのですが茶色や灰色など、できるだけ年上に見えるような色合いを選んでいたことを覚えていきます。

入社から2、3年は宮城県気仙沼市の自宅から南三陸町のホテルまで、車で1

語り部が震災を伝承 ⑤

南三陸ホテル観洋女将
阿部 憲子氏



家族懇親会は震災後も続けてきた(2017年)

必要に迫られて女将に

旅館業のイメージを高め考えました。

当時の父から聞いていた話とは裏腹に、旅館業は必ずしも好印象を持たれていなかったような気がしました。ある旅館の支配人は大卒の社員でしたが「旅館に就職すると親に伝えたら泣かれました」と明かしてくれました。早期や深夜の勤務も多いため、従業員の家族から「う

める必要性を感じた。従業員から「毎年3月に」と、うちの子供に『お母さん、今年の懇親会は、いつ開かれるの?』と尋ねられるんです」と言われるほど定着しました。従業員の親や子供がアルバイトで働かれました」と明かしてくれました。家族4人がホテルで一緒に働いている家庭もあり、うれしく思います。

東日本大震災が起きる前は社員旅行やバスツアーなど団体客が多く、客室の稼働も順調

時間かけて通っていました。しかし現場責任者になったところから「通勤時間がもったいない」と思うようになり、ホテルに住み込んで働き始めました。

女将に就任したのは1988年です。南三陸ホテル観洋はホテルの名前が付いていますが、実際は和室や宴会場を備えた旅館です。当時は団体客が大きな会場

で宴会を開く際などに、旅行会社の担当者らに「阿部さん、女将さんとしてお客様にご挨拶をお願いします」と依頼されることが増えていきました。

こんな流れで、私が実際に女将を名乗ることになったのです。担当する仕事も各現場の責任者から、営業や労務管理などの業務に移っていきました。

「家族懇親会」を85年ごろから毎年開催することになりました。従業員の両親や子供らに無料で1泊してもらい、ビンゴ大会などの余興をお話ししていきます。

「家族懇親会」を85年ごろから毎年開催することになりました。従業員の両親や子供らに無料で1泊してもらい、ビンゴ大会などの余興をお話ししていきます。

「家族懇親会」を85年ごろから毎年開催することになりました。従業員の両親や子供らに無料で1泊してもらい、ビンゴ大会などの余興をお話ししていきます。

「家族懇親会」を85年ごろから毎年開催することになりました。従業員の両親や子供らに無料で1泊してもらい、ビンゴ大会などの余興をお話ししていきます。

「家族懇親会」を85年ごろから毎年開催することになりました。従業員の両親や子供らに無料で1泊してもらい、ビンゴ大会などの余興をお話ししていきます。

「家族懇親会」を85年ごろから毎年開催することになりました。従業員の両親や子供らに無料で1泊してもらい、ビンゴ大会などの余興をお話ししていきます。

「家族懇親会」を85年ごろから毎年開催することになりました。従業員の両親や子供らに無料で1泊してもらい、ビンゴ大会などの余興をお話ししていきます。

「家族懇親会」を85年ごろから毎年開催することになりました。従業員の両親や子供らに無料で1泊してもらい、ビンゴ大会などの余興をお話ししていきます。

「家族懇親会」を85年ごろから毎年開催することになりました。従業員の両親や子供らに無料で1泊してもらい、ビンゴ大会などの余興をお話ししていきます。

「家族懇親会」を85年ごろから毎年開催することになりました。従業員の両親や子供らに無料で1泊してもらい、ビンゴ大会などの余興をお話ししていきます。

「家族懇親会」を85年ごろから毎年開催することになりました。従業員の両親や子供らに無料で1泊してもらい、ビンゴ大会などの余興をお話ししていきます。

「家族懇親会」を85年ごろから毎年開催することになりました。従業員の両親や子供らに無料で1泊してもらい、ビンゴ大会などの余興をお話ししていきます。

「家族懇親会」を85年ごろから毎年開催することになりました。従業員の両親や子供らに無料で1泊してもらい、ビンゴ大会などの余興をお話ししていきます。

「家族懇親会」を85年ごろから毎年開催することになりました。従業員の両親や子供らに無料で1泊してもらい、ビンゴ大会などの余興をお話ししていきます。

「家族懇親会」を85年ごろから毎年開催することになりました。従業員の両親や子供らに無料で1泊してもらい、ビンゴ大会などの余興をお話ししていきます。

「家族懇親会」を85年ごろから毎年開催することになりました。従業員の両親や子供らに無料で1泊してもらい、ビンゴ大会などの余興をお話ししていきます。

「家族懇親会」を85年ごろから毎年開催することになりました。従業員の両親や子供らに無料で1泊してもらい、ビンゴ大会などの余興をお話ししていきます。

「家族懇親会」を85年ごろから毎年開催することになりました。従業員の両親や子供らに無料で1泊してもらい、ビンゴ大会などの余興をお話ししていきます。

「家族懇親会」を85年ごろから毎年開催することになりました。従業員の両親や子供らに無料で1泊してもらい、ビンゴ大会などの余興をお話ししていきます。

「家族懇親会」を85年ごろから毎年開催することになりました。従業員の両親や子供らに無料で1泊してもらい、ビンゴ大会などの余興をお話ししていきます。

仕事人秘録

避難者が退去し、一般営業が始まる。

東日本大震災の発生から3カ月ほど経過すると徐々に避難者が仮設住宅などに移り、ホテル内の空間に余裕が出てきます。このころから警察や東北電力の関係者など、公的な役割を担う人たちからの宿泊依頼が多くなりました。

ただし、このころは水道も部分復旧の状態です。平常時のように客室に滞在してもらうことは難しく、大広間などに泊まっていただけになりました。振り返ってみれば、これが通常営業に向けた第一歩とも言えます。

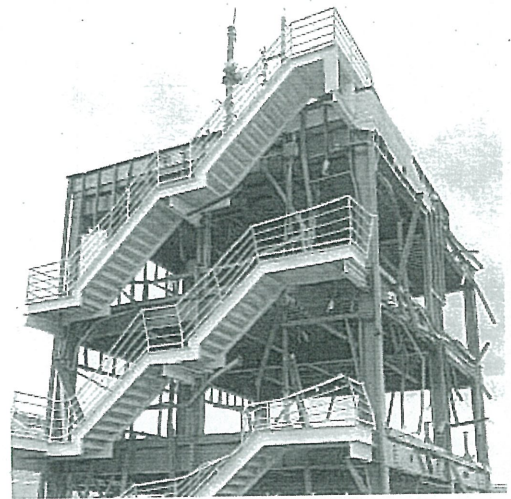
7月には水道が完全復旧し、8月に入るとインフラ修理などに携わる公的機関の担当者に加えて一般客も

語り部が震災を伝承 ⑥

南三陸ホテル観洋女将

阿部 憲子氏

代表的な震災遺構である防災対策庁舎（宮城県南三陸町）



もありましたが、何も言えり部バス」の原点となりませんでした。同じような要請は多

語り部活動の最初は「道案内」だった。あるときホテルの営業担当者から「女将さん、お客様から『被災地を道案内してほしい』と言われていて、津波が到達した高さや避

か」と報告がありました。難した人数などが語り部に

たしか埼玉県から来たボランティア団体からの依頼です。隣町の新聞社の記者に

たたと記憶しています。依頼し、南三陸町での取材結果を教えてくださいました。

復興事業の人材が宿泊

従業員は自分が体験したことが

受け入れることができるよりリフレッシュしたりする場所です。被災地の実情を

知ってもらうのはありがたいのですが、せっかく来て

津波の被害を受けた土地

を見た衝撃は大きく、泣き

ながらホテルに入ってくる

人も多かったです。「実

態は想像を超えていた」と

青ざめた顔で話す人もいた

ことを覚えています。ホテルは本来、楽しんだ

その言葉で、われわれ観光事業者には東日本大震災

の実態を広く伝えるという

新たな役割があることに

付かされました。営業担

者はボランティア団体のバ

スに同乗し、役場の職員が

町民に放送で避難を呼びか

け続けた防災対策庁舎や病

院などを案内しました。

バスの中で震災当日の体

験などを話したことが「語

り部」の原点となりま

した。同じような要請は多

く、伝える相手は大学教授

や報道関係者など様々でし

た。そのうちに「事実関係

仕事人秘録

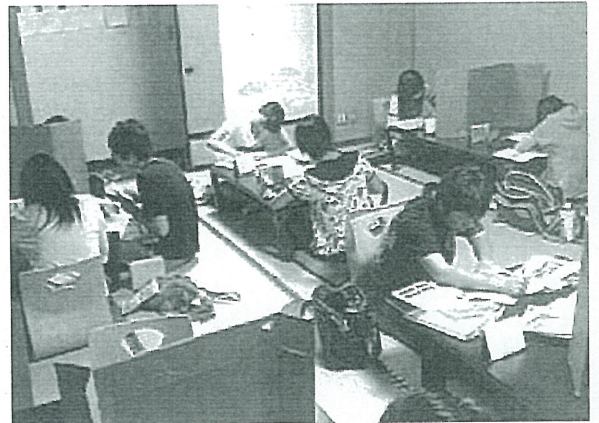
個人客への対応が「語り部バス」の運行につながった。

ボランティアや企業など団体のバスにホテルの従業員が同乗する形で、現在の「語り部バス」につながる原型ができました。そうしているうち、ホテルのフロントで個人客がタクシーを依頼する際に、あることに気付いたのです。

フロントでは顧客の取り違えなどを防ぐため、タクシーを依頼した顧客の名前と行き先を事前に確認します。従業員が行き先を尋ねると、宿泊客が言葉を濁すことが増えてきたのです。どうしたのかと思って様子をつかがうと「被災地の実態を見てみたい」ということだと察しました。

語り部が震災を伝承 ⑦

南三陸ホテル観洋女将
阿部 憲子氏



コミュニティーを維持するためホテルに学習支援の場も設けた

ホテル内で寺子屋開く

ん教室は現在も
続いています。
ホテルでは手
芸講座や落語会

国内外から利用を希望する人は多く、現在までに延べ人数で42万人がバスに乗車してくれています。

ホテル内に子供の「てらこや」も設けた。寺子屋を運営したのは東日本大震災から3カ月後に

ホテルは宮城県南三陸町に住む多くの人たちの避難所になり、家族全員がホテルに滞在するような世帯がほとんどでした。あるとき小中学生を育てている親から「子供の教育が不安で、めたホテルでの無料そば

そう言っていただけではタクシーの運転手にも事情を説明して案内を頼むのですが「物見遊山のように、現地の皆さんには依頼しにくい」という話でした。

それならば私たちが案内しようと考えて始めたのが、現在まで続く「震災を風化させないための語り部バス」です。防災対策庁舎などを巡る約1時間のコー

スを大人料金で500円、ホテルを運営する阿部長商店が保有する震災遺構の高野会館の内部も見学する1時間半のコースは大人1000円で運行しています。

無料でバスを走らせることも考えましたが、従業員から「ガソリン代も語り部の人件費も必要です」という意見が出て、有料での運行を決めました。それでも

この子の将来が心配だ」という話を聞きます。将来も南三陸町に住み続けてもらい、コミュニティーを維持するために、子供の教育は大きな問題でした。

当時は私の娘も小学4年生で、親御さんの気持ちがよく理解できました。そこでホテル内に子どもたちが勉強できるスペースを確保し、東京などからボランティア

など、様々なイベントを開きました。16年には著名なデザイナーが布の端材を使い、カバンに付ける飾り物を作る手法を地元の方々に伝えました。これは東京の百貨店で販売されるまでに

津波で壊れたものを維持し、地元の人々をつなぎ留めるために知恵を絞る日々でした。

仕事人秘録

津波の被害を受けた建物が解体されると震災当日の状況を伝えるのが難しくなってきた。

東日本大震災の津波で損傷した建物があったころは、近くで語り部バスが停車すると乗客たちが窓から身を乗り出すようにして建物を見上げ、絶句してしまっていた。語り部たちの話を実感を持って聞いていただいている様子でした。

しかし解体されて更地になり、雑草が生い茂るようになると「なぜ何もない場所です。停車するのかわからない」という霧囲気が車内で漂うようになってきたのです。

そこで語り部同士の勉強会を開き、今では更地になっている場所が震災当日にどんなことが起きたのかを

語り部が震災を伝承 ⑨

南三陸ホテル観洋女将
阿部 憲子氏



高野会館は震災遺構では珍しい民間施設だ（宮城県南三陸町）

震災遺構の保存決断

は、ここに何があったんで壊すなら公的な資金が出すか」と質問が出ます。津波への対策として土地をかさ上げし、整備しているために、ますます震災当時の姿が想像しにくくなっていたのです。しかし私は高野会館を解体して更地にしてしまえば、被災につながる活動が病院や学校、警察署といった震災遺構は「物言わぬ語り部」としての役割を果たしていたのだと気付かされた役割に気付く。公的な震災遺構として保存できないかと考え、宮城県の南三陸町に寄贈を申し出たのです。

阿部長商店の
会長だった父と
副社長の夫、私

共有するようにしました。ある病院では看護師が患者を守りながら「私も津波で流されるかもしれない」と覚悟し、万一のことがあったときには遺体が自分だと分かるように、腕にペンで名前を書いたそうです。あの日は、そんな壮絶な体験がたくさんありました。語り部たちは単なる空き地のように見える場所です。何があったのかを話し、乗客に当時の情景を想像してもらっています。それでも目に見える震災遺構が減り続けるうちに、語り部からは「何を話せばいいのかわからない」という悩みも聞こえてきました。高野会館で2011年3月11日に何が起きたのかは祈念公園の造成が始まる次回にお話ししたいと思っています。そもそも行政関係者から「ここは何ができるんですか」「震災前からは11年の秋に「いま取

れました。そこで意を強くしたのが、ホテルを運営する阿部長商店（宮城県気仙沼市）が保有する冠婚葬祭場「高野会館」を、被災した状態のまま遺構として保存することでした。こうなれば自分たちで「民間震災遺構」として保存するしかないという覚悟を決めました。社内で今後について議論しましたが「壊し

ませんでした。」「壊し

仕事人秘録

東日本大震災の当日、高野会館は高齢者の演芸大会を開いていた。

2011年3月11日に東日本大震災が起きた瞬間、高野会館では地元の高齢者ら300人以上が参加する演芸大会を開いていました。地震が起きると、慌てて建物を出て自宅へ帰ろうとする人も出てきました。

高野会館は海に近く、大津波が襲来することも予想されていました。勤めていた社員は「高齢者の足では逃げ切れない」と判断し、建物の出口で両手を広げて「生き残りたければ残ってください」と体を張って止めたのです。

その後は社員が全員を地上17階の屋上へ誘導します。その後高野会館は大

語り部が震災を伝承 ⑩

南三陸ホテル観洋女将
阿部 憲子氏



高野会館の屋上ではペットボトルの蓋で水を分け合って生き延びた
(宮城県南三陸町)

生き延びた事実伝える

があり、内部を壊される事態も起きました。それでも語り部バスに乗車した42万人のうち約1割が高野会館に入って被災した内部を見たうえで大勢が生き延びた屋上から街を一望し、震災当時の光景を想像してもらっています。震災遺構は犠牲者が出た場所であることも多く、その教訓は長く伝えていく必要があると思います。現在は無理でも行政の担当者と話し合い、公的な施設になるという選択肢もあり得ると考えています。いま震災遺構は学校など公的な場所が多いですが、大勢の命を救った民間施設の存在を伝え続けることにも意味がある。私たちは、そう信じています。語り部バスの運行を続けているうちに、リピーターの来訪者から「前回に乗車した際の、あの方の話をもう一度聞きたい」今度は家族にも同

津波に襲われ、窓ガラスは割れて各階の壁や設備は大きな被害を受けました。そして屋上にも津波が迫り、さらに高い「塔屋スペース」に上がりました。

津波に襲われ、窓ガラスは割れて各階の壁や設備は大きな被害を受けました。そして屋上にも津波が迫り、さらに高い「塔屋スペース」に上がりました。

津波に襲われ、窓ガラスは割れて各階の壁や設備は大きな被害を受けました。そして屋上にも津波が迫り、さらに高い「塔屋スペース」に上がりました。

一方で、避難した全員が生き延びた事実から、災害の発生時にどう行動すべきなのか考える場所もあって、語り部としての伝える力を高めるため、過去に災害が起きた土地で語り部活動をしている先輩たちの経験も知りたいと思つた。この思いが、後に「全国被災地語り部シンポジウム」の開催につながるようになりました。

仕事人秘録

全国にいる語り部の「先輩」たちに学びたいと考えるようになる。

語り部バス運行などの活動を続けているうちに、過去に他の地域で起きた災害では、どんな伝承活動があるのかを知りたいと思うようになりました。

東日本大震災から12年の現在ならば、当事者が体験談を来訪者へ直接伝えることもできません。しかし年月が経過すれば、自身では震災を体験していない世代も増えてくるからです。

そこで阪神大震災の教訓を伝える団体を訪ねました。語り部のうち、どの程度の人が実際に震災を経験したのか尋ねると、返ってきたのは「現在は経験していない語り部がほとんどで

語り部が震災を伝承 ⑪

南三陸ホテル観洋女将

阿部 憲子氏



シンポジウムでは各地の団体が伝承への工夫を伝えあう

日常に溶け込む重要さ

える行事を通じて災害の記憶をつないでいました。日常に溶け込んだ行事であり、一定の年齢になれば自然に参加するという話でした。江戸時代に安政地震津波が発生した際、地元の有力者が稲むらに火を付けて村人を高台へ避難させた和歌山県広川町では、このエピソードが地元の祭りに組み込まれていました。日本各地から集まった団体の活動や現状を聞き、個人の記憶を記録として残すことの必要性を強く感じるようになった。東日本大震災の当日や、その後の経験も私たちが「いつか聞きに行こう」と思っているうちに、体験者の転居や高齢化で聞けなくなってしまうこともあり得ます。そんな事態を避けるため積極的に研修の機会をつくり、我が町の語り部活動へ反映させることを心がけるようになりました。

す」という言葉でした。

阪神大震災が起きたのは28年前の1995年です。私たちは30年後や50年後まで東日本大震災の教訓をつ

なぐることができるのかと心配になりました。新たな語り部を育てるという意味も込めて「全国被災地語り部シンポジウム」の開催を決めたのです。

大学教授や阪神大震災の

語り部団体などと実行委員会を組織し、2016年に第1回を宮城県南三陸町で開きました。

このシンポジウムで、全国には古い災害の記憶をつなぐ様々な伝承の活動があることを知ります。240年前に浅間山が噴火して被害を受けた群馬県碓氷村では、地域の人たちが定期的

に集まって「お念仏」を唱

視している。当事者の活動報告を重

一般的シンポジウムで大学教授など専門家の登壇が主体になる場合も多いと思います。しかし全国被災地語り部シンポジウムは

仕事人秘録

避難所の水不足を救ったのは大手自動車メーカーの支援だった。

東日本大震災が起きてからは様々な企業から援助を受けました。感謝しながら、その過程で学んだことを振り返ろうと思います。

震災から約4カ月は十分な量の水を確保できず、トイレや風呂も十分には使えずに苦労していました。食事の支度も不自由でした。そんな時期に大手自動車メーカーが給水車を毎日1台、ホテルへ配車してくれることになりました。

本来は宮城県南三陸町の役場に向かうはずでしたが、役場自体も被災していたため、ホテルへ回ってきたという話でした。

給水車が隣の登米市で水

語り部が震災を伝承 ⑫

南三陸ホテル観洋女将

阿部 憲子氏



海水を淡水化するシステムの導入でホテルの水利用が大きく改善した(2011年6月)

避難所に企業から援助

その条件でメーカー内の許

なっていました。避難者からは「館内に冷房を効かせたい」という要望が出てきましたが、冷房設備も水が無ければ動かすことはできなかつたのです。

そんなときに海水を淡水化して利用できるシステムの存在を知ります。海水ならば目の前にいくらでもあります。ぜひ導入したいと思ひ、知人を介して淡水化処理システムのメーカーに

その条件でメーカー内の許

を積載し、ホテルまで運んでもらうことで、ようやく風呂が使えるようになりました。メインの大浴場は被災して使えませんが、小規模の浴場は稼働できたので、避難者だけでなくホテルの近所に住む人たちにも開放しました。

生活に必要な衣食住のうち食と住に強いホテルだからこそ果たせる役割であり、暑さを感じるような季節に

入が実現した。このころはホテル内でも暑さを感じるような季節に

切だと知りました。

だが、民間企業を直接助け

暑さを感じるような季節に

暑さを感じるような季節に

暑さを感じるような季節に

暑さを感じるような季節に

仕事人秘録

支援する側と助けられる側にミスマッチが発生することも知った。

海水を淡水化するシステムをホテルに導入したことで、それまで週2回しか入れなかった風呂を毎日使えるようになりました。それまではトイレも「できるだけ館外にある仮設トイレを使ってください」と依頼していたのですが、かなり自由度が増しました。

淡水化処理した水は水道水とほぼ変わらないとも聞きました。飲み水には公的な手続きが必要で、風呂やトイレに使いました。飲料水や調理に使う水は給水車でまかない、生活の質はかなり向上しました。

淡水化システムのメーカーの担当者によれば、東日

語り部が震災を伝承 ⑬

南三陸ホテル観洋女将

阿部 憲子氏



ホテルにATMを設置するまでには多くの企業と交渉した

ATM設置に何度も交渉

けいていますが、被災地への支援で動いてくれた

「ホテルに現金自動預け払い機(ATM)があれば便利になる」と思いました。ATMを設置することは難しいことではないと思っていたのですが、最初に相談した銀行の担当者からは「ホテルの周囲には何軒の家がありますか」「何人が住んでいますか」と質問を受けました。ホテル周辺の家屋が津波で流された状況でも設置の可否を判断する

「ホテルの周囲には何軒の家がありますか」「何人が住んでいますか」と質問を受けました。ホテル周辺の家屋が津波で流された状況でも設置の可否を判断する

「ホテルの周囲には何軒の家がありますか」「何人が住んでいますか」と質問を受けました。ホテル周辺の家屋が津波で流された状況でも設置の可否を判断する

本大震災が発生した直後には被災した沿岸部の市町村

へファクスで支援の意思を伝えました。しかし多くの自治体は余裕がなかったでしょう。反応は無かったですと聞きました。

日本には優秀な技術や機械、人材が存在します。それを提供しようとしてもミスマッチが発生することがあると知ったのです。

「買い物という日常を取り戻したいと思う。ホテルに避難していた人たちは貴重品を持ち出せず、手元に十分な現金を持たない人も多かったです。それでも震災から日数が経過すると日用品を買いそろえる機会も増えます。買い物のたびに金融機関へ出向いて現金を引き出すのは手間がかかります。ホテルに現金自動預け払い機(ATM)があれば便利になる」と思いました。ATMを設置することは難しいことではないと思っていたのですが、最初に相談した銀行の担当者からは「ホテルの周囲には何軒の家がありますか」「何人が住んでいますか」と質問を受けました。ホテル周辺の家屋が津波で流された状況でも設置の可否を判断する

「買い物という日常を取り戻したいと思う。ホテルに避難していた人たちは貴重品を持ち出せず、手元に十分な現金を持たない人も多かったです。それでも震災から日数が経過すると日用品を買いそろえる機会も増えます。買い物のたびに金融機関へ出向いて現金を引き出すのは手間がかかります。ホテルに現金自動預け払い機(ATM)があれば便利になる」と思いました。ATMを設置することは難しいことではないと思っていたのですが、最初に相談した銀行の担当者からは「ホテルの周囲には何軒の家がありますか」「何人が住んでいますか」と質問を受けました。ホテル周辺の家屋が津波で流された状況でも設置の可否を判断する

仕事人秘録

仮設商店街と独立で再開した店舗の「格差」を感じるようになる。

東日本大震災から約1年後の2012年2月には宮城県南三陸町でも仮設商店街が開業しました。この時期は被災地での買い物が支援につながるという考え方が広がり、商店街には多くの人が集まりました。

一方で、仮設商店街の開業を待たずに独立店舗で復活した商店もありました。しかし震災前と比べて立地の良くない場所で再建した場合が多く、集客に苦戦する店もあったのです。

しかも店舗から全国へ情報発信する力は弱く、厳しい状態でゼロだ。「取引先が売掛金を持ってくる予定

語り部が震災を伝承 ⑭

南三陸ホテル観洋女将

阿部 憲子氏



マップは南三陸に住む人たちを結びつける効果もあった

点在する商店を支援

たのですが、これが意外な効果を生みました。首都圏などからの来訪者が会計の際にマップを出せば、店主や店員との間で「初めて来てくださったんですね。ありがとうございます」 「あの飲食店さんに行かれましたか。おいしかったでしょう」などと会話が始まるきっかけになります。単なる集客以上の意義がありました。

さらには南三陸町内に住む人から「震災前に通っていた店がなくなり、どこで復活したか分からなかった。久しぶりに店主と会えた」などの声も届くようになります。輪が広がり、思った以上にコミュニティ維持にも貢献できました。被災地では復興事業に伴う区画整理で街の姿が変わり続けます。店舗の場所も頻繁に変わるため、毎年改訂してきました。これまで発行枚数は合計で60万部に達しています。

宮城県の「第1回観光王国みやぎおもてなし大賞」に選ばれるなどの評価も受けました。

マップは5個を集めるとエコバッグや缶ビールと交換でき、10個集めると南三陸ホテル観洋の入浴券と引き換えられます。エコバッグや缶ビールは大手メーカーから支援を受けています。メーカー

だったが、店の場所が分からずに引き返した」という声も聞こえてきました。商店街と違って店舗が各所に点在し、南三陸を訪れた人に気付かれないことが問題だと感じました。そこでホテルと取引があった酒販店や飲食店など70店の経営者に「お店を巡るマップを作りましょう」と声をかけます。点在した店を転々

と巡ってほしいという願いを込めて名称は「南三陸てん店(てん)まっぷ」に決め、13年の夏に3万部を発行しました。

来訪者向けと考えていたが、地元の人たちを結ぶ効果もあった。マップの内容は各店舗の住所と特徴、商品や外観などの写真です。各店を巡るスタンプラリーの形式にし

さらに南三陸町内に住む人から「震災前に通っていた店がなくなり、どこで復活したか分からなかった。久しぶりに店主と会えた」などの声も届くようになります。輪が広がり、思った以上にコミュニティ維持にも貢献できました。被災地では復興事業に伴う区画整理で街の姿が変わり続けます。店舗の場所も頻繁に変わるため、毎年改訂してきました。これまで発行枚数は合計で60万部に達しています。

宮城県の「第1回観光王国みやぎおもてなし大賞」に選ばれるなどの評価も受けました。

マップは5個を集めるとエコバッグや缶ビールと交換でき、10個集めると南三陸ホテル観洋の入浴券と引き換えられます。エコバッグや缶ビールは大手メーカーから支援を受けています。メーカー

仕事人秘録

新型コロナウイルス対策で他の
宿泊施設と協力した。

2020年の1月後半から、新型コロナウイルスが
集客に影響を与え始めまし
た。修学旅行や企業など大
口客のキャンセルが相次
ぎ、前年比で約8割の減少
になった時期もあります。

電話が鳴るたびにキャン
セルの申し出で、ついには
電話が全く鳴らなくなりま
した。ホテルには最大で約
1300人が泊まれます
が、宿泊客が十数人とい
う日まであったのです。

それでも私たちは東日本
大震災の経験で、いったん
営業を止めると再開が難し
いことを知っていました。
そこで私は「みやぎおかみ
会」の会長として宮城県内
の宿泊施設に連携を呼びか

語り部が震災を伝承 ⑮

南三陸ホテル観洋女将

阿部 憲子氏

お宿に
エールを
貴方に
感謝を。



新型コロナウイルス対策の外出自粛により
人の流れが失われてしまった観光地・宿泊
施設のみのお宿や行き先い場所があるけれど
いまはぐっと抑えている旅好きの皆様。
-「予定が取消したら、足跡まで欲しい」
-「希望が実現したら、もっと行きたい」
旅先でおく「い」を、旅先での「笑」へ
「エール」と「感謝」で繋ぎ合いませんか。
「みやぎお宿エール券」は、
お宿とお宿と、旅先のおいさめの人との
「旅の約束」を形にしてお贈りします。



「みやぎお宿エール券」は宮城県内の参加施設で
10,000円ご購入につき13,000円分(1,000円券×13枚)

「みやぎお宿エール券」は宮城県
内の宿泊施設と連携して発行した

コロナ禍での自助努力

修学旅行の団体は新型コロナ
ウイルス流行や国の緊
急事態宣言などに伴って、
日程の延期が繰り返されま
した。2回や3回の日程変
更は当たり前で、中には延
期の回数が増え7回にわたった
学校もあります。
このころ先生から「講話
だけでも生徒に聞かせた
い」と要請があり、初めて
の試みとして「オンライン
語り部」も手掛けるように
なりました。避難所を運営し
たり、彼が真っ先に手を挙げ
てくれたことがうれしい」
行動や責任、女性だから気
づけたことなどを画面越し
に語りかけました。
なぜホテルが避難所にな
ったのかという質問を受け
ることも多いです。都会に
は商業施設などが多いた
め、宮城県南三陸町の震災
でも学べる人が多い場所
なのだと改めて気付かされ
た出来事でした。

け、前売りチケットの発売
に動きます。1万円〜1万
3000円分の価値がある
チケットで、県内の17軒が
「みやぎお宿エール券」の
名称で販売しました。
宮城県内を中心に買って
くださる方が多く、最終的
な売上高は合計で1億30
00万円でした。電話やフ
ァクス、インターネットで
注文を受け付けたのですが
活動も始めた。
「家族で以前に宿泊しまし
た。応援しています」「コ
ロナが落ち着いたら必ず行
きます」などのメッセージ
を寄せてくれたのです。
最も遠いところからの注
文は米国のハワイでした。
23年に入って購入者が実際
に来訪してくれたときには
感動しました。
オンラインでの語り部
よつでした。

「あの生徒は学
校をしばらく休
んでいた生徒で
ので向かこうと
ある高校の団体が宿泊
し、私が震災の体験を話す
と、最後に1人の男子生徒
が手を挙げて質問しまし
た。講話が終わると校長先
生が私を呼んでいるとい
うので向かこうと
ある高校の団体が宿泊

仕事人秘録

アジアを中心に海外へ
現状を伝えている。

連載は今回で終了です。

最後は海外への情報発信に
ついてお伝えします。

東北は東日本大震災が起
きる前から訪日客が少ない
地域でした。南三陸ホテル
観洋でも新型コロナウイルス
が流行する前の段階で、
宿泊客のうち日本以外から
の来訪は8%程度でした。
その大部分は仙台空港と格
安航空会社（LCC）で結
ばれていた台湾です。

現在も訪日客は少ないで
すが、震災の教訓を世界へ
語り継ぐ意味でも来訪者を
増やす努力が必要だと感じ
ています。その一環がイン
ターナショナルの受け入れ
で、震災後に台湾からの学
生63人を受け入れました。

語り部が震災を伝承 ①⑥

南三陸ホテル観洋女将

阿部 憲子氏



阿部氏（中央）はホテルが震災
の教訓を伝えながら地域経済を
支える場であることを願う

海外にも情報を発信

う願いがあります。こんな
取り組みが、長い目で見て
訪日客の誘致につながると
考えています。

被災地への旅行は「不
謹慎」ではないと説く。
震災から12年となりまし
た。これからも努力して、
南三陸の魅力を高めていき
たいと思っています。あの
日に小学4年生だった娘は
都内の大学を卒業し、4月
からはビジネススクールで
経営について学
びます。

新型コロナウイルスの影響で一時停
止していましたが2022
年の夏に再開し、現在も4
人がフロントなどで就業体
験をしています。

彼女が小さい
ころから祖父に

香港からの来訪者が語り
部バスに乗車した際に通訳
として付き添うなど、様々
な役割を果たしてくれてい
ます。私たちも今後は外国
語を話せる人材の育成や館
内表示の外国語対応など
故郷」と思っ

た学生には楽しい思い出
を持って帰ってほしいと考
えています。そこで地元
の衣装と連携し、和服体
験などを通じてほしいとい
う。私たちが今後外国
語を話せる人材の育成や
館内表示の外国語対応な
故郷」と思っ

年齢が一段と進んだ被災地
の現状を見て「日本の将来
の縮図だ」と指摘する声
が

日経産業新聞副編集長
村松進が担当しました。